

15. 八幡市家村（川源）家文書調査

渡邊 幸奈

1. 概要

家村（川源）家文書（以下、家村家文書）は京都府八幡市石清水八幡宮の綱曳神人の旧家である家村家に伝来した文書群である。2021年3月、所蔵者が京都府立山城郷土資料館伊藤太氏に同文書群に関する相談を行い、6月に同資料館にて本学特任講師竹中友里代が資料を実見した。10月に竹中及び本学教員東昇が資料を借用し、府立大へ搬入した。文化情報学研究室では、2022年12月から文化情報学実習他において同文書群の調査を継続して行なっている。全点の目録採取、ラベル貼り、写真撮影が完了し、現在は史料の翻刻を進めている。

調査日程 2023年4月12日・26日、5月10日・24日・29～31日、6月7日・21日、7月5日・10日・19日、10月4日・18日

調査参加者 東昇（教員）、竹中友里代（特任講師）、正瑞千幸、長谷川巴南、花尻千秋（以上博士前期課程2回生）、東拓宏、松岡茉陽琉（以上博士前期課程1回生）、井上泰良、渡邊幸奈（以上4回生）、小原万侑、小島慧音、島村朱音、渡部凌空（以上3回生）

2. 内容

家村家文書は計370点の文書群であり、現在、箱1～3及び別置文書として管理している。箱1（289点）は、近世の土地売買証文、金銀借用証文を中心に、昭和に至るまでの様々な資料が収納されている。特に、天明3年（1783）「放生大会ニ付御神領川口村四人組御綱神人御供奉之一札」（1-266）や、天保11年（1840）、御綱長小河玄蕃から家村源右衛門へ布衣・御綱小頭1株を永代譲り渡した「一札」（1-166）等からは綱曳神人としての家村家の様子がうかがえる。また、箱2（45点）には宝永4年（1707）から大正8年（1919）の間に石清水八幡宮公文所、あるいは宮司から家村家の者へ発給された補任状が計14点含まれており（2-1-7他）、少なくとも大正まで家村家が祭礼等を通じて石清水八幡宮と関わりがあったことがわかる。その他、箱2には和歌の短冊（2-4-3他）、漢詩（2-4-7）、水墨画（2-2-1）等が計19点含まれ、家村家とその周辺の人々の交流や文人活動の様子が判明する。箱3（1点）は額縁入の和歌を便宜的に箱3として管理している。和歌の作者は「従二位藤原尚資」とあり、江戸後期の公卿豊岡尚資と推測されるが伝来の経緯は未詳である。別置文書（35点）は明治期の葉書や写真、戦死者の弔辞がほとんどである。

今後も同文書群の調査を継続し、報告書を作成する予定である。

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
